

「なにか策がないか」中心市街地活性化
について問う
跡部 政敏

【質疑】市の歴史と自然は街づくりに使える地域特有の漢方薬。

耕地は広く、独特の土質で展示品として使える自然である。アイディアの根底は観光客の誘致。

あるものを使わない手はない。白石の多くの資源はいまだ磨かれていない原石に等しい。

い。

新しい物をつくるより、今ある物をどう使うかが大切。

持続と発展性が望めて地域に残せる博物館の進化型「地域自然博物館」構想はどうか。

【その他の質問】

単年度会計をすべての財政内容を示せる複式会計に変える構想はないか。

白石の政治風土に対する認識を
伺いたい
大庭 康一

【質疑】「一部の反対派云々」「反対の人とは話をしないこととしております」かつての議会における市長発言である。

この発言こそ、他より閉鎖的、排他的といわれる白石の政治風土を象徴していると言っても過言ではない。風間市長は否定するだろうか、この政治風土を解消しなければ

ば市長のいう4万人都市復活大作戦は夢のまた夢である。白石の政治風土に対する認識について伺いたい。

【答弁】平成20年に仙台・宮城ステイネーションキャンペーンが開催される。

これを推進するために「仙台・宮城ステイネーションキャンペーン」白石市推進協議会を立ち上げたところであるが、行政だけではなく、商店街、また各種団体の協力のもと、市民一丸となって受け入れるという態勢を整備していきたいと思っている。

白石には白石城、小原・鎌先両温泉ともに代表されるようなさまざまな観光資源を有

している。

観光事業者など一部の人がただけが対応するといったイメージがあるが、地域で生活する市民の皆さんが自然、歴史、文化、街並み、景観、さらには産業と地域に備わっている資源をしっかりと評価するなど、受入態勢を含めた地域を挙げての取り組みが重要であると認識しており、その白石らしさを再発見することはもちろんのこと、これらを全国にアピールすることによって、観光客の誘致とその定着化が

図られるものだと考えている。自然博物館の発想というのは本当にすばらしい発想だと思う。

現在、市民グループで商店街を博物館に見立てた「まちかど博物館」などを実施しており、その方々と連携はもちろん、地域に埋もれている「お宝」と言われる資源についても、市民の協力を得ながら掘り起こして、発信をしていきたいと思っている。

【答弁】白石の政治風土が閉鎖的、排他的であるとは思っていない。

白石の政治風土が閉鎖的、排他的であると感じられないのは、もしかすると、このようなことのないように、議員のような方々が努力してきてくれたおかげで、我々若者はそういうことがないのかもしれない。

感謝を申し上げたい。施政方針でも述べているとおり、市民総参画の共創によるまちづくりを推進している。

そのため、現在、市役所内では職員とのランチトークや職員提案制度を導入しており、また今後、市長へのダイレクタメール、わいわいトークと題し、市内の各種団体との意見交換を行ってまいりたいと考えているところである

こういう取り組みが、より市政に意見や提案をしやすい環境づくりに寄与し、ひいては、市民総参画の共創によるまちづくりの推進を加速するものであると考えている。

これからはみんなで一丸となってやっていかなければならないというのは同感である。

